

REX50 追加コマンド説明書

テキストモード

AUTOMOUNT(自動マウントモードの設定)

動作

オートマウント機能の有効/無効を設定します。

コマンド

AUTOMOUNT`[20H]`設定値`[0DH]`

設定値	オートマウントの有効/無効を指定します。
-----	----------------------

レスポンス

OK`[0DH]`

が返ってきます。

備考

設定値に 1 を指定すると、オートマウントが有効になります。
オートマウントが有効になると、メディアの挿入時に自動で MOUNT コマンドを実行します。

設定値に 0 を指定すると、オートマウントは無効になります。

電源投入直後は、オートマウント無効状態になります。

PORTOUT(汎用ポート出力設定)

動作

基板上の P10, P9 ポートの出力信号を制御します。

コマンド

PORTOUT $\overline{20H}$ ポート番号 $\overline{20H}$ 出力値 $\overline{0DH}$

ポート番号	設定を行うポートの番号を指定します。
出力値	ポートに出力する値を指定します。 0 = Low レベル 1 = High レベル 2 = Hi-Z 3 = ステータスの bit0 4 = ステータスの bit1

レスポンス

OK $\overline{0DH}$

が返ってきます。

備考

出力値に 0 または 1 を指定すると、High または Low レベルがポートに出力されます。
出力値に 2 を指定すると、ポートはハイインピーダンスになり、入力ポートとして使用できます。
出力値に 3 を指定すると、STATUS コマンドで得られる値の bit0 の値がポートへ出力されます。
出力値に 4 を指定すると、STATUS コマンドで得られる値の bit1 の値がポートへ出力されます。
出力値に 3 または 4 を指定した場合は、最新の STATUS 値が常にポートへ出力されます。

電源投入後、全ポートはハイインピーダンスになります。

P10 の 9 番ピンから High レベルを出力したい場合は、

PORTOUT $\overline{20H}$ $\overline{9}$ $\overline{20H}$ $\overline{1}$ $\overline{0DH}$

とコマンドを送ります。

PORTIN(汎用ポートの状態を得る)

動作

基板上の P10, P9 ポートの信号を読み取ります。

コマンド

PORTIN $\overline{20H}$ ポート番号 $\overline{0DH}$

ポート番号	取得するポート番号を指定します。
-------	------------------

レスポンス

取得値 $\overline{0DH}$

が返ってきます。
指定されたポートが High レベルの場合は 1 が、Low レベルの時は 0 が値になります。

備考

PORTOUT コマンドで Hi-Z 以外を指定しているポートも読み込みは可能です。

SETFLOW(シリアル通信のフロー設定)

動作

シリアル通信のフロー制御の設定を行います。

コマンド

SETFLOW[20H]受信制御[20H]送信制御[0DH]

受信制御	受信フロー制御信号 (P2 の 4 ピン) の動作を指定します。 0 = 制御しない 1 = 受信が出来ない時に High レベルを出力します。 2 = 受信が出来ない時に Low レベルを出力します。
送信制御	送信フロー制御信号 (P2 の 6 ピン) の動作を指定します。 0 = 信号を無視します。 1 = High レベルの時は、データの送信を行いません。 2 = Low レベルの時は、データの送信を行いません。

レスポンス

OK[0DH]

が返ってきます。

備考

電源投入直後は、受信フロー=2、送信フロー=0 の状態です。

WRITEN(ファイルへ書き込む)

動作

オープンしたファイルへデータを書き込みます。

コマンド

WRITE 20H ファイル識別子 0DH
データ 03H

ファイル識別子	書き込みたいファイルの識別子を指定します。
データ	書き込むデータを指定します。 0DH の後から 03H の前までのデータがファイルへ書き込まれます。 一度に書き込めるデータサイズは512バイトまでです。

レスポンス

書き込み処理が成功した場合は、

ファイルへ書き込んだデータの長さ 0DH

が返ってきます。

失敗した場合は

ERROR 0DH

が返ってきます。

備考

書き込みオープンしたファイル以外を WRITE コマンドで書き込もうとするとエラーになります。
一度に513バイト以上のデータを書き込むことはできません。

書き込み後は、書き込んだサイズだけ読み書き位置が移動されます。

コマンドの実行が成功すると、ファイルへ書き込んだデータの長さが返ってきます。

SLEEP(スリープ)

動作

REX をスリープさせます。

コマンド

SLEEP`0DH`

レスポンス

OK`0DH`

が返ってきます。

備考

レスポンスで OK を返した後に、REX はスリープモードに入ります。
P9-15 番ピンに LOW レベルを 250nsec 以上入力すると、スリープモードから復帰します。

スリープから復帰して 100msec 経過後にシリアルポートが有効になりますので、
スリープ復帰後すぐにコマンドを送られると、正常に通信できない場合があります。

バイナリモード

99H AUTOMOUNT(自動マウントモードの設定)

動作

オートマウント機能の有効/無効を設定します。

コマンド

99H 設定値 SUM

設定値	オートマウントの有効/無効を指定します。
-----	----------------------

データ

データはありません。

備考

設定値に 1 を指定すると、オートマウントが有効になります。
オートマウントが有効になると、メディアの挿入時に自動で MOUNT コマンドを実行します。

設定値に 0 を指定すると、オートマウントは無効になります。

電源投入直後は、オートマウント無効状態になります。

9AH PORTOUT(汎用ポート出力設定)

動作

基板上の P10, P9 ポートの出力信号を制御します。

コマンド

`9AH` `ポート番号` `出力値` `SUM`

ポート番号	設定を行うポートの番号を指定します。
出力値	ポートに出力する値を指定します。 0 = Low レベル 1 = High レベル 2 = Hi-Z 3 = ステータスの bit0 4 = ステータスの bit1

データ

データはありません。

備考

出力値に 0 または 1 を指定すると、High または Low レベルがポートに出力されます。
出力値に 2 を指定すると、ポートはハイインピーダンスになり、入力ポートとして使用できます。
出力値に 3 を指定すると、STATUS コマンドで得られる値の bit0 の値がポートへ出力されます。
出力値に 4 を指定すると、STATUS コマンドで得られる値の bit1 の値がポートへ出力されます。
出力値に 3 または 4 を指定した場合は、最新の STATUS 値が常にポートへ出力されます。

電源投入後、全ポートはハイインピーダンスになります。

9BH PORTIN(汎用ポートの状態を得る)

動作

基板上の P10, P9 ポートの信号を読み取ります。

コマンド

`9BH` `ポート番号` `SUM`

ポート番号	取得するポート番号を指定します。
-------	------------------

データ

`取得値` `SUM`

が返ってきます。
指定されたポートが High レベルの場合は 1 が、Low レベルの時は 0 が値になります。

備考

PORTOUT コマンドで Hi-Z 以外を指定しているポートも読み込みは可能です。

9CH SETFLOW(シリアル通信のフロー設定)

動作

シリアル通信のフロー制御の設定を行います。

コマンド

9CH **受信制御** **送信制御** **SUM**

受信制御	受信フロー制御信号(P2の4ピン)の動作を指定します。 0 = 制御しない 1 = 受信が出来ない時に High レベルを出力します。 2 = 受信が出来ない時に Low レベルを出力します。
送信制御	送信フロー制御信号(P2の6ピン)の動作を指定します。 0 = 信号を無視します。 1 = High レベルの時は、データの送信を行いません。 2 = Low レベルの時は、データの送信を行いません。

データ

データはありません。

備考

電源投入直後は、受信フロー=2、送信フロー=0 の状態です。

9DH WRITEN(ファイルへ書き込む)

動作

オープンしたファイルヘータを書き込みます。

コマンド

`87H` `ファイル識別子(1byte)` `サイズ(2byte)` `データ` `SUM`

ファイル識別子	書き込みたいファイルの識別子を指定します。
サイズ	書き込むデータの長さを指定します(1~512)
データ	書き込むデータを指定します。 一度に書き込めるデータサイズは512バイトまでです。

データ

`書き込んだデータサイズ(2byte)` `SUM`

が返ってきます。

備考

書き込みオープンしたファイル以外を WRITE コマンドで書き込もうとするとエラーになります。
一度に513バイト以上のデータを書き込むことはできません。

書き込み後は、書き込んだサイズだけ読み書き位置が移動されます。

コマンドの実行が成功すると、ファイルへ書き込んだデータの長さが返ってきます。

B9H SLEEP(スリープ)

動作

REX をスリープさせます。

コマンド

B9H **SUM**

データ

データはありません。

備考

コマンド実行応答で ACK を返した後に、REX はスリープモードに入ります。
P9-15 番ピンに LOW レベルを 250nsec 以上入力すると、スリープモードから復帰します。

スリープから復帰して 100msec 経過後にシリアルポートが有効になりますので、
スリープ復帰後すぐにコマンドを送られると、正常に通信できない場合があります。

汎用ポートについて

基板上の汎用ポートの位置と、コマンドで指定する番号の対応は次のようになります。

ポート番号	基板ポート位置	備考
0	P10-1 番ピン	
1	P10-2 番ピン	
2	P10-3 番ピン	
3	P10-4 番ピン	
4	P10-5 番ピン	
5	P10-6 番ピン	
6	P10-7 番ピン	
7	P10-8 番ピン	
8	P10-9 番ピン	
9	P10-10 番ピン	
10	P10-11 番ピン	
11	P10-12 番ピン	
12	P10-13 番ピン	
13	P10-14 番ピン	
14	P10-15 番ピン	
15	P10-16 番ピン	
16	P9-5 番ピン	プルダウンされています
17	P9-6 番ピン	N チャンネルオープンドレイン出力
18	P9-7 番ピン	N チャンネルオープンドレイン出力
19	P9-8 番ピン	
20	P9-9 番ピン	
21	P9-10 番ピン	
22	P9-11 番ピン	
23	P9-12 番ピン	
24	P9-13 番ピン	
25	P9-14 番ピン	

汎用ポートには 0[V]～VCC[V]の電圧を入力できます。
範囲外の電圧が加えられると、コントローラが破壊されるおそれがあります。

汎用ポートに電流を流しすぎた場合、コントローラが破壊されるおそれがあります。
1 ポート辺り 5mA 以上の電流を流さないようにしてください。

表記していない空きポートには、何も接続しないでください。
誤動作やコントローラの破壊の原因になります。

P9-6, P9-7 ピンは、オープンドレイン出力になりますので、外部にプルアップ抵抗等が必要です。

